

事例で深める!

学習評価

実践校の取り組みを基に、
学習評価をより充実させるポイントを
田村先生がアドバイス

石川県立金沢辰巳丘高校

たつみがおか

「主体的に学習に取り組む態度」 を単元ポートフォリオで評価

生徒を適切に見取れているか。
課題感を基に評価方法を改善

田村 貴校は2025年度から、定期
期考査を一部の教科で課すことを
やめたと同じました。

熊切 本校はこれまで、生徒の学力
が幅広い中、各教科が工夫して学習
評価を行ってききましたが、生徒を適
切に見取れているかという課題感を
持っていました。評価材料を多様に
すると定期考査による評価の比重が
下がり、定期考査への生徒の意識が
低くなることも課題でした。そこで
昨年11月、私と島崎先生は定期考査
を全廃した高校を視察しました。同
校の取り組みから、学習評価は単
元テストなどでも十分できると分か

り、本校の定期考査のあり方を見直
すことを職員会議で提案しました。
その結果、定期考査は各教科が任意
で実施することとし、評価方法を各
教科で見直すことになりました。

島崎 視察の帰りに熊切先生と自
校の課題や視察の成果を話す中で、
教師が生徒を値踏みする評価では
なく、生徒の資質・能力を伸ばす評
価にすべきだと気づきました。私
が担当する数学科では、全学年で
定期考査をやめ、単元テストとレ
ポート、単元ポートフォリオなど、
短い周期で生徒の資質・能力を評
価する方法にしました(図1)。

田村 自校の課題を基に動き始め、
先進校の視察を通じて改善の方向
性を見いだして、それを校内で共有

石川県立金沢辰巳丘高校プロフィール



左から/熊切道人(教務課長、理
科主任)、島崎大志(数学科主任、
1学年担任)

設立 1986(昭和61)年
形態 全日制/普通科(普通コース、芸
術コース)/共学
生徒数 1学年定員120人
2024年度卒業生進路実績 国公立大
は、富山大、金沢大、長岡造形大、金沢
美術工芸大、愛知県立芸術大などに18人
が合格。私立大は、東京音楽大、大阪芸
術大、石川県内私立大などに28人が合格
短大・専門学校進学25人。就職10人。

し、改善を図る過程は、多くの学校
にとつて参考になる進め方ですね。

評価規準の具体化が
生徒を学びに向かわせる

田村 数学科では「主体的に学習に
取り組む態度」の評価の重みが大き
いようですが、それはなぜですか。

島崎 「主体的に学習に取り組む態
度」が身につく、自ら学ぶようにな
れば、「知識・技能」や「思考力・判
断力・表現力」も向上していくと考
えたからです。生徒には、「主体的に

解説者



文部科学省 初等中等教育局
主任視学官
田村 学 たむら・まなぶ

専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラ
ム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教
授などを経て、現職。著書に、『学習評価』(東
洋館出版社)など多数。

図1 数学科 3観点の評価の重みと評価材料

観点 評価	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
A	23～30点	23～30点	30～40点
B	11～22点	11～22点	15～29点
C	10点以下	10点以下	14点以下
評価 材料	単元テスト	レポート	単元ポートフォリオ (30点)、 平常点 (10点)

上記は2025年度のもの。 ※学校資料を基に編集部で作成。

図2 数学科 単元ポートフォリオ (例)

今日の授業の振り返り (月 日)

① 今日感じた数学のよさ

② 数学的に見て、今日の問題の解き方 (図を使う、式を書く、表を使う、公式の使い方など) はどうでしたか?

とても よかった	よかった	あまり よくなかった	よくなかった
-------------	------	---------------	--------

③ 粘り強く考え、数学から逃げずに戦い抜くことはできましたか?

できた	まあ できた	あまり できなかった	できなかった
-----	-----------	---------------	--------

単元ポートフォリオは、生徒が授業で学んだことを記入するシートや振り返りシート、単元末の振り返りシートを端末に記録して単元ごとにまとめたもの。 ※学校資料を基に編集部で作成。

図3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の具体化 (取材時の対話より)

田村 教師用資料にある具体的な姿として、「数学でどうにか解決できないかと自己調整を繰り返し、粘る姿」とありますが、それは学んだことを意識的に使う、自分の知識を新たな場面で積極的に活用するといった学習態度を生徒に期待しているということですか。

島崎 その通りです。例えば、「数学Ⅱ」の授業で、二項定理の問題を「数学Ⅰ」の知識で解こうとする生徒が少なくありません。そこで、自分の方法を見直し、該当単元で学んだ公式を活用できることを目標にしました。

田村 今言われた文言の方が、求める姿がとても具体的です。例えば、「身につけた知識を活用して、問題の解決に何度も取り組もうとする」「本単元で獲得した知識を使って、自分の力で問題を解こうとする」といった文言も考えられます。そのような評価規準を生徒と共有すれば、生徒は自分が持っている知識を活用しながら、諦めずに自ら解決しようとする姿に向かう可能性が高まります。

島崎 評価規準をどう設定すればよいか、イメージが湧きました。

田村 もう1つの「振り返りを基に、今ならどのように考えるか。やり直しや次回への考えの整理など」も具体化は可能でしょうか。

島崎 「今日の授業で出てきた問題点を明確にし、次の授業で取り組む課題を見つける」でしょうか。

田村 よいと思います。ただ、問題点だけでなく、成果やよかった点も振り返るような文言を入れるとさらによいですね。振り返りを通じて今の自分のよい点と課題に気づき、よい点は継続し、課題にも取り組む。振り返りは次の学びに生かそうとする行為につながる事が重要であり、学びにおける粘り強さや自己調整につながります。評価規準が明確に設定されていれば、生徒は自己評価を精緻に行えるでしょう。

島崎 教えていただいた視点で評価規準を見直していきます。

※取材を基に編集部で作成。

島崎 いいえ、1単元のもので。田村 単元ごとに活用する公式や既習事項は異なるため、②をできるだけ具体的に記述することが重要です(図3)。生徒が具体的に何をすべきかが認識しやすくなるからです。生徒を見取る視点もより具体化するため、今まで見逃していた生徒の姿や振り返りの記述を捉えることもできるよつになるはずです。

島崎 ただ、目標を達成するまでに必要なステップは、生徒によって

学習に取り組む態度は「粘り強さ」と「自己調整能力」の観点で評価すると説明し、毎授業の振り返りを記録する単元ポートフォリオ(図2)などを評価材料にしています。

田村 指導と評価の一体化を図られたのですね。教師用資料には、「主体的に学習に取り組む態度」を①見取る視点と②具体的な事項の例として、「①数学のよさを認識し、数学を活用しようとしているか」「②公式や既習事項を活用しているか」とありました。それは評価規準に相当すると思いますが、数学全体の評価規準になっていますか。

田村 その鍵となるのは単元ポートフォリオです。生徒が評価規準を認識し、目標に向けた自分の行為を振り返り、そこで教師が適切に助言をすると、生徒は目標の達成につながる行為や変容を自覚します。その繰り返しのよつによって、生徒は継続して主体的に学ぶよつになるでしょう。

熊切 課題を具体化することができました。本日の対話での気づきを校内で共有し、実践していきたいと思います。

異なります。どうすれば個別に対応できるのか、悩んでいます。

田村 生徒へのフィードバックに力を入れましょう。例えば、「あなたの振り返りを見ると、目標に対してこれだけ成長している。あなたの取り組みは成果につながっている」などと、教師が生徒の振り返りと評価規準を照らし合わせ、成果や課題を読み解いて伝えるということです。

島崎 評価規準が具体的であれば、その生徒が目標を達成するために必要なことを適切に伝えられるわけですね。そうすれば生徒は、自分で次の目標を立てられそうです。